

有限会社花菱精板工業

医療従事者や患者さんにとっての使いやすさに気を配る製品開発を目指します！

技術・製品紹介

精密板金加工から筐体組立・加工、製缶ダクト加工、機械加工まで
お客さまの多様なニーズに応える精密加工を得意としております。

製販企業様から相談を受け、
1日で形に

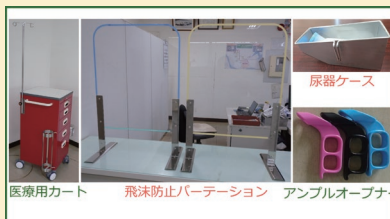
— 薬液を保持する治具、
注射器を引くための治具

薬液を保持するための治具と注射器
を引くための治具が欲しいという要
望から開発しました。



飛沫防止パーテーション、
アンプルオープナーなど、金属
加工・樹脂加工の多彩な製品事例

新型コロナウイルス感染症対策を目的に、飛沫防止パーテーションを開発しました。開発品の多くは現場の「ほしい」から生まれており、医療・福祉現場の皆様から、高い評価をいただいています。



立ち上がり補助具「オルタス」
はじめ、医療・福祉現場向けの
製品は高い評価をいただいで
おります！

医療機器メーカー、ディーラー、福祉機器を取り扱われている皆様からの製品イメージを形にし、現場で喜ばれる製品開発に取り組んでいます。使いやすい仕上がりでご提供いたしますので、ぜひ、ご用命ください。



会社概要

所在地 〒882-0024 宮崎県延岡市大武町 39 番地 9

電話番号 (0982) 33-7464

資本金 3,000,000 円

設立 1992 年 1 月

代表者 代表取締役社長 平田伸治

事業内容 精密板金加工
筐体組立加工
製缶ダクト加工
機械加工
各種産業機械加工

資格・特許等

ホームページ <https://hanabisi.co.jp/>

カンファレンスパーク

メッセージは、カンファレンスパークで受け付けています

<https://conference-park.jp/base/189>



製販企業様との連携事例

ワクチン接種の現場を支えるバイアル瓶ホルダー等、さまざまな製品開発を通じて、社会に役立てていただけるものづくりを目指します。



製販企業：三田理化メディカル株式会社様

見たよ

↑クリックするとメッセージを送ることができます

関係構築からはじまる医工連携

有限会社花菱精板工業は、多様化する顧客ニーズに応えるために株式会社花菱塗装技研工業のグループ会社として、1992年に設立された。柱は精密板金加工で、花菱グループ全体では、熱処理による素材の完成度の向上、塗装・印刷までワンストップで対応できる体制を整えた格好になる。これまで花菱精板工業は、立ち上がり補助具やアンプルオープナー、薬液ホルダーなど、金属加工・樹脂加工問わず、実に多彩な製品を送り出してきた。

同社代表取締役の平田伸治さんと、花菱塗装技研工業の熊本公祐さんに話を伺い、同社の医工連携の取り組みを振り返った。

スピードとデザイン重視の製品開発

新型コロナウイルス感染症対策として、ワクチン接種が全国的におこなわれており、会場では接種用の注射器の準備にも手間と労力がかかっている。注射器へのワクチン充填は、バイアル瓶のゴム栓から注射針を挿入したり、充填した後は注射針に蓋をしたりといった細かな作業の繰り返しで、手指の疲労などからミスが生じる恐れがある。ここに着目して誕生したのが、花菱精板工業が製造した「クイックフィラーフレックス」の初期モデルで、同社との医工連携実績のある三田理化メディカル株式会社から協力依頼を受けた製品だ。手元が安定し、針刺しの視野も確保されるため、不慣れでも作業を簡単におこなえ、慣れてくれば作業効率もあがる。何よりもバイアル瓶を一度取り付ければ交換するまで、繰り返し触れなくても良いことが評価されている。



大規模会場でワクチン接種を支える器具として沖縄から北海道まで広く採用されているが、三田理化メディカルがこだわったのは販売できるタイミングだった。販売が遅れば遅れるほど販売できる数は減るという懸念がある中、三田理化メディカルが花菱精板工業に真っ先に声をかけたのは、過去に別の案件で薬液ホルダーと一緒に製品化した実績があったからだ。

花菱精板工業と三田理化メディカルとの出会いは、5～6年前に宮崎県が主催した宮崎県企業と首都圏の医療機器メーカーやディーラーとのマッチングを目的とした「本郷展示・商談会」に遡る。この時に花菱精板工業が展示していた「薬液ホルダー」に三田理化メディカルが目をつめた。製品コンセプトの仕上げと販路開拓を三田理化メディカルが担い、花菱精板工業が製造するという連携体制がこの時に生まれた。一度、連携体制を組めてしまえば、次の開発プロジェクトはスムーズに進みやすい。「クイックフィラーフレックス」の初期モデルから製造し、1モデルについては

わずか数日で受注生産を実現した。

「あったらいいな」から生まれた立ち上がり補助具

花菱精板工業が手がけた製品に、要介助者が座りたいところに置くだけで介助者が要介助者の立ち上がりを補助できるレバー付きの座面「オルタス」がある。てこの原理で左右に備わったレバーを下げると座面がお尻を持ち上げるように押し上がり、介助者の体力的な負担が軽減される。このほか、介助者を必要とせず、自分で立ち上がれる椅子の開発にも取り組んだ。これは、2017年に宮崎県が開催した「知財ビジネスマッチング」で、株式会社イトーキの特許を使ったもので、現在も開発段階にある。同社がこうした立ち上がり関連製品に着目したのは、お年寄りにとっても運動しやすい設備を作れないかという社内の声がきっかけだという。

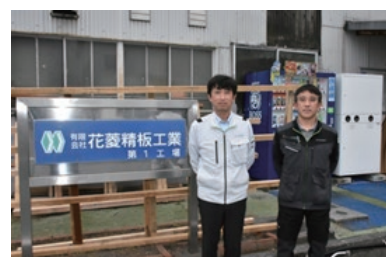
医療従事者の怪我を防ぐアンプルオープナー

薬剤が入った密封された細いひょうたん型のガラス瓶を開ける時に、うまく折れず手を怪我することがある。この怪我を防ぐために、開発されたのがアンプルオープナーで、NPO 医工連携推進機構で客員研究員を務める吉川典子さんのアイデアから生まれた。金属での試作から、軽量化や見た目からも使いやすさが伝わるようにと樹脂製に。デザイン面では、オルタスの設計から関わりがあった坂野博行さんの協力を得て製品化した。現在、ディーラー経由で販売している。

医工連携もアイデアの構想から製品化まで一巡すると、製造までを手がけるのか、自社で販売まで対応するのかなど、連携のあり方も明確になってくる。既存事業とバランスをとりながら、新たな機会創出に取り組む花菱精板工業だ。



アンプルオープナーの試作から完成(左)まで。



花菱精板工業代表取締役の平田伸治さんと、花菱塗装技研工業の熊本公祐さん(左)